

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 11 月 21 日

「歴史介入」の国際規範構築に向けて——「積極的規範主義」の立場から

人間学研究室

歴史研究室

主任研究員 川久保剛

今回は、歴史認識問題のグローバル化に伴う諸問題について検討した。歴史認識問題は従来、「加害国」と「被害国」の二国間問題であった。しかし、人権問題や環境問題と同様、歴史認識問題においても、国際社会の「介入」が一般化しつつある。しかし、「歴史介入」には様々な問題点が含まれている。国際社会は歴史事実を「検証する責任」を果たしていないし、背後にある政治的要因にも考慮を払おうとしない。また、介入後に生起する、介入者と加害国との関係悪化、加害国に対する新たな人権侵害、文化的侮辱行為、ヘイトクライムの発生などの問題にたいする関心が著しく欠如している。今回の発表では、このような現況に対する対応策として、「歴史介入」の適格性条件を定めた国際的な規範・ルール構築の必要性を提案し、その具体的内容についても検討した。またこの問題における日本国の役割についても指摘した。